

三尾
重定
編輯

新編
小學讀本
第二

大日本教育會館

三	二
三號	六函
九册	

178
4
91

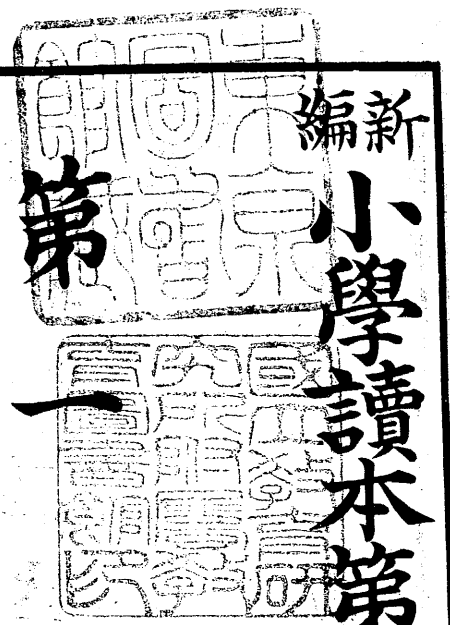
K120
68
2

三尾重定編

新編 小學讀本第二

東京 教育書院藏

東京府立第一高等女学校蔵



新編 小學讀本第二

三尾重定編

玉。人。賢。

玉。みが、されバ。ひより

新編 小學讀本 第二

教育書院

なし人 まふはざれば
ちゑいでむ つとめまふび
て 賢きもの と なれ

第二

氣成得

むづかきとて 氣をお
とすか はぢめバ かなら
ず成し得べし

第三

方天地

人のたちたる
 かいらの方
 を 天といひ
 あしむ方を
 地といふ



第四

高山谷

地の高きとあるを 山と
 いひ 山と 山との あひ
 だを 谷といふ

第五

狐走鹿

けものい のにえ やまに
えあり 狐 たぬきい の
を走る さる 鹿おどる

山ふ阿そぶ

第六

水所海

水ふかく ひろく せいで
あまたのふねの ゆき

する所を海といふ

第七

陸、川、流、池、

水の陸をふるると

ころを川といひ水のた

まりて流きぬと水

池といへり

第八

東、西、南、北、

ひのいづるかたを東とい

ひ 日のいる方を

西といふ あさ日にむくの

ひて みぎの方を

南といひ ひだりの方を

北といふ



第九

春。夏。秋。冬。

春ハ あたゝかにしては
かさき 夏ハ 阿つくして
みづゝのわき 秋ハ すゞし

く志て つきをみ 冬ハ さ
むくして ゆきふる

第十

朝。夕。夜。

ひのいづるころを 朝とい

ひ 日のいるるを 夕と
ひ ひのいりたるのちを
夜といふ

第十一

時、年、月、數

一日一夜ハ 廿四時ふして
一年ハ 十二月 日の
數ハ 三百六十五日かり

第十二

花、梅、桃、牡丹

はるさく花ハ なるくを

梅 けむき 桃 きくら

山吹 かいたう 牡丹のた

ぐひ 以詠くあり

第十三

走。倒。心。歩。

みちを走れば つまはき

倒きて かへりて人にお

くる、木はあり 心志づる

小 歩むべし

新編 小學讀本 第二

第十四

途、休、先、行。

途、不、て、休、め、ば、あ、や、な、る、人

を、先、へ、行、く

べ、心、不、ゆ



だ、ん、を、る、こ、は、あ、ら、れ

第十五

游、鳥、鴈、鴨、岸

水、不、游、ぶ、ハ、な、に、鳥、を、鴈



新編 小學讀本 第二

十 教育書院

新編 小學讀本 第二

新小學讀本 第二

新南書院

もあり 鴨を阿里 志らさ
ぎい 岸ふたち 又 をし
ど里も 二つあり

第十六

遊、清、舟、漕。

なつこの日の 遊びよハ 清
き川べに 舟をうかべて
水のまふく 漕ぎめぐるぞ
たのしみなる

第十七

新小學讀本 第二

土 教育書院

形。桶。圓。箱。

水いそとより 形なし 桶

にいるれば 圓くあり 箱

ふ以るまば 方となる

第十八

亦。善。惡。交。

人も亦 水のおとく よま

ひとふまどはまば 善き人

となり 阿しき人ふ交れば

悪き人とある

第十九

蟲、何、松、鈴、其、

あきなく蟲ハ何ぞぞ松

むし 鈴むし きまぐし

くつわむしかど 以てく小

て 其ころゑ きまぐなり

第二十

食物、穀、肉、

類、烹、積、

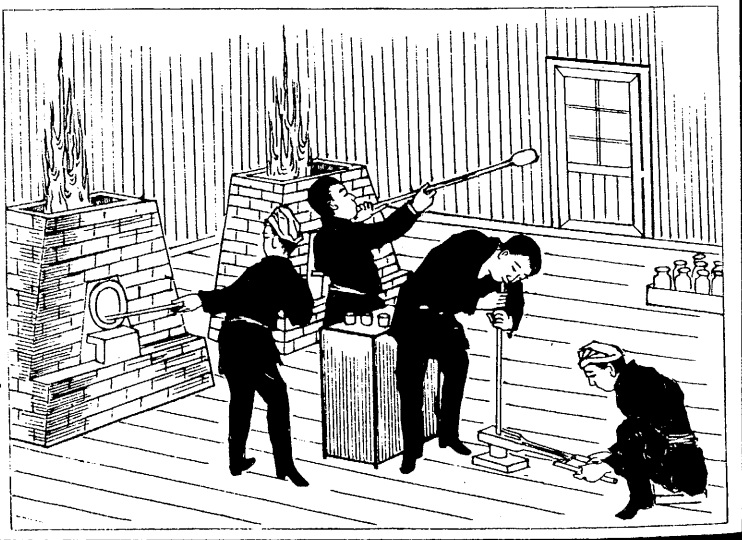
人の食物ハ 穀るゐ 肉る

おやさいの類小して 烹
てくらひ 志ほ積とし 又
おぼふてえ 食ふものあり

第二十一

早。起。務。励。仕事。

あさひ 早く
起て わが務
めを励むべし
朝おこたま
むる此日の



仕事 はかどらず

第二十二

一年。始。殊。勉強。

朝ハ一日のはじめ 一日

ハ一月のはじめ 一月ハ

一年の始なれば 阿さい

殊さら 勉強をべー

第二十三

事。知。問。恥。

あらざる事ハ 人に問へ

新編小學讀本 第二

教育書院

とふこやハ 恥小あらず
知らですぐるハ 満ことに
はぢたり

新編 小學讀本第二 畢

板權免許

明治十九年
一月廿五日

再版御届

同 年
五月廿八日

定價金五錢五厘

編輯者

愛知縣士族
三尾重定

出版者

東京府士族
岩田富美

出版井
發賣人

東京府士族
吉澤富太郎



本所區松井町三町早番地